

1. アトリオみなみおかこども園の教育・保育目標

- ・平和と共生をめざす、寛容で自立した人間の育成を目指す。
- ・子育て家庭支援と地域連携で、子育て環境を豊かに創造する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

目標 園児一人一人にとってふさわしい生活の場を保障する。

計画 幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づき保育計画、全体計画を立て、理解を深める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
[教育・保育の計画性について] ・要領を理解し、計画的に教育・保育が行われていたか ・評価・反省を行い、次の教育・保育に活かしていたか	B	限られた時間、人員の中で、より子どもたちにとって有益な取り組みを計画されているように感じる。大変な難い反面、それらの取り組みが今一歩保護者や園外（保育園検討中の方など）には伝わっていない。伝えるという部分を今以上に教諭が担うのは業務過多であるため、改善するのであれば園として根本的な対策が必要と思われる。
[教育・保育の向上について] ・園内及び園外研修や公開保育を通し学んだ事を各教諭が教育・保育の中で活かしているか ・子どもの主体性を大事にする環境であったか	B	教諭による差が大きい。ほとんどの教諭が園児に向き合った保育をしてきているように見える。しかし、旧態依然とした保育観が払拭されていない場面や、先入観に基づく外れな声かけをしている場面も散見される。一部の教諭は、家庭での子どもの様子を伝えると「教えてくださってありがとうございます!」「以前のお話ですが、その後どうですか?」といった反応があり、心から嬉しく感じる。子どものことを知り、保育に活かそうという思いが感じ取れるからだ。実際に我々保護者たちが受ける印象として、上記のように保育の姿勢・質の差を感じる以上、改善の余地があるように思う。とは言え、ひとえに「個人の資質・能力」によるわけではなく、「保育環境」の要因も大きいのではないかと考えられる。教諭の増員をはじめとする環境の整備によって物心ともにゆとりが生まれれば、おのずと各教諭が学んだことを実践したり、理想とする保育を行ったりする状況になるのではと推察される。そうすれば同時に、二つ目の項目にある「子どもの主体性を大事にする環境」を、今以上に整えることにも繋がると思う。
[保護者との連携について] ・様々な感染症に対する保育の在り方を保護者に伝えたか	A	年度はじめに配布される「ほけんのしおり」がわかりやすく、加えて「ほけんだより」で時節に合った情報や予防についての知識も得られ、とても助かる。また、実際に罹患した際の対応も素晴らしい。看護師・担任はじめ園長・主幹保育教諭、時にその他教諭までもがそのことを把握し、声かけをしてくれる。決して感染症についての基準を曲げるわけではないものの、仕事と看病とで板挟みの保護者の気持ちに寄り添う姿勢が有り難い。
[地域の子育て支援について] ・地域との交流に意義を感じ積極的に取り組んでいるか	B	コロナ禍を契機になくなった取り組みがそのままである点は残念。また、「地域の子育て支援」の全貌が、評価できるほど保護者には伝わっていないように思う。

4. 総合的な評価結果及び今後の課題

結果	理由
B	十分に安全かつ健全な保育環境であるとともに、一人ひとりに合わせた柔軟さも有り、有り難く感じている。一方、より豊かな園の在り方を目指すにあたっては、あらゆる改善点はあると思われる。端的に課題を記載することは難しいが、今回のように保護者の日々の気づきを掬いあげてもらえる機会があれば、効率的に子どもたちにとってよりよい環境を作っていくのではないかなと思う。

3, 4 の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

5. 施設関係者による評価・意見

施設関係者：保護者（きりん組アルバム委員）

いざ改善しようにも「人員不足」「業務に見合わない待遇」など、社会全体としての問題も大きな壁となっており、一朝一夕に解決しない状況の中、より良い保育を目指される姿勢に感謝しております。

1. アトリオみおなみおかこども園の教育・保育目標

- ・平和と共生をめざす、寛容で自立した人間の育成を目指す
- ・子育て家庭支援と地域連携で、子育て環境を豊かに創造する

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

目標 園児一人一人にとってふさわしい生活の場を保障する

計画 幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づき保育計画、全体計画を立て、理解を深める

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
[教育・保育の計画性について] ・要領を理解し、計画的に教育・保育が行われていたか ・評価・反省を行い、次の教育・保育に活かしていたか	B	全体計画に沿って年齢ごとの「年間計画・月案・週日案」を作成、保育をすすめる。担任間で、日々反省、課題等評価し、次回の保育に活かすように努めている。計画、実践、評価を、主幹教諭と共に意見交換をしながら取り組んでいる。保育経験年数によって、子どもからの自発性の遊びを保育に込めない担当者もいる。再度、クラスに戻したり主幹保育教諭による個人対応をする。また、保護者の理解に関しては、お便等の文章、クラス懇談会や行事の中での説明等で知らせているが、不十分な時がある。
[教育・保育の向上について] ・園内及び園外研修や公開保育を通し学んだ事を各教諭が教育・保育の中で活かしているか ・子どもの主体性を大事にする環境であったか	B	マネジメント等は職員の勤務年数に考慮した内容選択、担当者はクラス年齢に沿った研修内容を選択し受講する。受講後、報告書提出。 実技実習で習得した遊びを保育の中で実施（実践）する。 保護者には、クラスだけで知らせたり、5領域の取り組みや内容の見える化を図り、毎日フォトボリオで知らせる。 子どもからのつぶやきや発見などを大切に拾い、保育に活かす。
[保護者との連携について] ・様々な感染症に対する保育の在り方を保護者に伝えられたか	A	ほけんだよりの発行。感染症の病名、クラス、罹患人数等を玄関先に掲示。情報をコドモンで配信。 丁寧な消毒等、感染症拡大防止に努める。また、健康な体づくりを目的として、保護者が苦手と話す「食事」について、園看護師より「発達のめやす」と校区連絡会、地域ネットワーク会議に参加。
[地域の子育て支援について] ・地域との交流に意義を感じ積極的に取り組んでいるか	B	千里青雲高等学校の畑を借り、野菜栽培。高校生との交流会を持つ。 「アトリオひろば」の掲示により、園庭開放、プールあそびへの参加、発育測定に来園者あり。

4. 総合的な評価結果及び今後の課題

結果	
B	「教育・保育の計画性」については、職員間で共有しているが、保護者の理解においてはクラス懇談会や個人懇談、クラスだけでお知らせするが伝わっていないと感じる。また「教育・保育の向上」においても、保護者が理解できるような発信をしているであろうか。「評価や反省」「研修」では、フォトボリオで触れたりしているが、今後、その中に研修に参加したこと等も発信するようにしたい。「感染症」は、直接命に係わることを意識し、より早い情報発信をしているところが評価された。「地域」はコロナ後、徐々に事業に参加するようになり、一時保育も人数制限をするほどである。全体的に、まんべんなく取り組むが、次年度は、具体的な評価項目にしたいと考える。

3, 4 の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である